

世界の最先端を学ぼう

この項では、海外の離床に関する論文を紹介していきます。読みなれていない人でもイメージができるように、かみ砕いて和文で要約しています。新しいだけでなく、臨床に役立てられる論文を厳選していますので、是非、元の英語文献にも触れてみてください。

飯田 祥
日本離床学会

血栓回収術後の離床は安全にできるか

Wei Wang et al. Safety and Efficacy of Early Rehabilitation After Stroke Using Mechanical Thrombectomy. *Front Neurol.* 2022 Apr 8;13:698439.

超脳梗塞患者さんに対する早期離床は奨められていますが、血栓回収術後の離床が安全かは明らかになっていません。そんな血栓回収術後の離床に関する、興味深い報告が届きました。

この研究では、血栓回収術後の平均 40 時間後に離床を行い、安全性を調査しています。その結果、血栓回収術後の離床は安全に実施可能で、死亡率・再発率は上昇せず、感染症や静脈血栓などの合併症が減少したということです。血栓回収術後にも、脳卒中や安静による合併症を最小限にとどめて、ADL 改善を促すために、リスク管理を行って離床を進めることが重要だと感じる研究です。

慢性腎臓病患者さんに対する離床・運動の効果

Florentino Villanego et al. Impact of physical exercise in patients with chronic kidney disease. *Nefrologia (Engl Ed).* 2020 May-Jun;40(3):237-252.

慢性腎臓病の患者さんにも離床や運動が良いらしい！と聞いたけれど、「一体何に効果があるの？」と疑問に感じたことはないでしょうか。そんな疑問を解消する、慢性腎臓病患者さんに対する離床・運動に関する報告が届きました。

Villanego らは、慢性腎臓病患者さんに対する運動介入に関する 21 の研究を分析し、介入内容や効果について調査しています。その結果、慢性腎臓病患者さんに対する Borg スケール 11（楽である）程度の低負荷の運動は、持久力と QOL を向上し、血圧の値を安定化させる効果があるということです。以前はハイリスクといわれた慢性腎臓病患者さんに対する離床や運動ですが、負荷や頻度に注意して介入することで、患者さんの機能改善につながると感じる研究です。